

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
総務企画部	伊東 弘毅	地域企画課	十和田八幡平観光班	齋藤 隆	0186-22-0458	観光機能合体推進事業	県、市及び町が設置した機能合体組織のもと、観光振興に連携して取り組むことにより、一層の誘客促進を図り、地域の活性化に資する。	3,607,000	負担金	①広域観光連携推進事業 ・桜と雪の回廊観光キャンペーン ・紅葉と温泉キャンペーン ・十和田湖観光推進広域連携事業 ②インバウンド対策事業 ・台中国際旅行博覧会でのPR ・タイ旅行エージェント商談会への参加 ・韓国語講習会の開催(6回) ③教育旅行誘致事業 ・教育旅行誘致キャラバン実施(北海道・宮城県・岩手県・秋田県の小中学校150校訪問) ・教育旅行モニターツアー(3校4名)	鹿角広域観光推進会議	十和田八幡平来訪観光客、県外教育関係者、旅行事業者、台湾旅行事業者、PR事業実施地域住民など	平成25年4月1日	・広域誘客では首都圏・東北などへの情報発信、インバウンドでは入込客数の多い台湾地域へ、教育旅行では、北海道及び岩手・宮城・秋田市の学校や旅行代理店に積極的に誘致活動を行っている。 ・震災からの回復は進んでいるものの、震災前の宿泊客数には戻っておらず、地域からも継続した取り組みを求められている。	機能合体組織「鹿角広域観光推進会議」で三つの事業を柱として、様々な方面からの誘客促進を図り、地域の活性化を目指す。
						平成25年4月1日～平成26年3月31日							平成26年10月31日		
総務企画部	伊東 弘毅	地域企画課	企画振興班	土橋 明日弥	0186-22-0456	鹿角「まるごと売り出し」大作戦事業	地元農業者や加工事業者との連携により、観光PRや農産物・加工品等の販売を行い、鹿角地域のPRと誘客促進を図る。	44,130	直営	「秋田がんばろう市」への出店(9/7～8 秋田駅ぽぽろーど9社)	県	県民	平成25年4月1日	・イベント会場である秋田駅は、秋田県の玄関口であるため、観光客等に対し鹿角地域を広くPRすることができ、認知度アップが図られた。 ・総売上げとしては、昨年の1.5倍。特に北限の桃の知名度は高く、人気があった。 ・参加者からは、自らPR・販売することで、消費者の声や反応をダイレクトに伺うことができると好評を得た。	特産品のブランド化、既存商品の磨き上げ、売り込みなどに課題があり、今後も継続した取組が必要である。
						平成25年4月1日～平成26年3月31日							平成26年10月31日		
総務企画部	伊東 弘毅	地域企画課	十和田八幡平観光班	齋藤 隆	0186-22-0458	メディアPR戦略推進事業	鹿角地域への誘客、また隣接する青森県十和田市や岩手県八幡平市等との広域観光を推進するためには、効果的なメディアへのPR活動が必要となっている。	1,978,945	直営	①パブリシティの獲得6媒体(雑誌4誌、インターネット2媒体) ②読者プレゼント掲載10社 ③メディア交流会の開催(9/11あきた美彩館13社18名) ④メディア招聘事業(4名)	県	首都圏メディア	平成25年4月1日	・地域の観光情報を雑誌やインターネット媒体など幅広いメディアで紹介することが出来た。 ・メディア交流会では、地元ならではの情報を地元の方がプレゼンターとして説明したことで、単なる情報提供だけに留まらず、首都圏メディア担当者と共に接触を持つことができたことと評価を得た。	観光情報発信の手法や内容が細分化されるなか、情報を必要とする人により具体的に届ける方法として、記者の視点から情報を整理・発信できるメディアPRの手法は効果的である。 引き続き旅行対象者に訴求できる情報をPR事業者とともに検討していきたい。
						平成25年4月1日～平成26年3月31日							平成26年10月31日		

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
福祉環境部	相澤 寛	健康・予防課	健康・予防班	兎澤 真澄	0186-52-3952	生活習慣病予防対策事業	平成23年度に実施した喫煙対策実態調査(大館鹿角地域を対象)により、事業所内での受動喫煙対策が進んでいない現状が明らかになったことから、生活習慣病予防の推進のためたばこ対策を実施する。	555,649 (北秋田地域振興局で一括執行。内、鹿角地域振興局分：195,000円)	直営	①職場におけるたばこ対策オリンピック事業の実施 応募：20施設(鹿角市：17、小坂町：3) 内訳 コールド：17、シルバー：3(H26.3.31現在) ②イベントを活用した受動喫煙防止及び禁煙指導 ・かつの元気フェスタ(H25.9.15/鹿角市交流センター/550人) ・健康のつどい(H25.11.29/小坂町交流センター/150人) ③健康教育 企業トップが学ぶ健康講座(H26.3.4/鹿角市福祉保健センター/23人)	県	鹿角・北秋田地域振興局管内事業所及び地域住民	平成25年4月1日	・鹿角地域は喫煙率が高く、職場における喫煙対策の実施状況調査結果でも対策を取っていない事業所が多かったことから事業を実施したが、受動喫煙防止対策の必要性やたばこの危険性を理解してもらう機会となったことから、医師会からは評価されている。 ・イベントにおける禁煙指導では、徐々にではあるが自ら耳を傾ける人が増加してきた。	・たばこ対策オリンピック事業は27年度まで継続する予定としており、一般事業所に対し、職場内受動喫煙防止対策の重要性をより一層PRし、意識啓発を図っていく必要がある。 ・鹿角地域は観光地でもあることから、宿泊施設や飲食店での受動喫煙防止対策の拡充に向けて、関係機関と協議しながら取り組んでいく。
						平成26年3月31日									
総務企画部	伊東 弘毅	地域企画課	企画振興班	土橋 明日弥	0186-22-0456	北鹿の恵みマッチング事業	北鹿地域(鹿角及び北秋田地域振興局)は特色ある農作物に恵まれているものの、それらを加工して販売する取組が弱いため、食材の県外への販路拡大や、市場を踏まえたマーケティング力の強化を図る必要がある。	98,329	直営	①マッチング商談会参加事業者を対象としたマーケティングセミナーの実施(8/22 大館発電事務所15社) ②首都圏バイヤーを招聘した商談会及び現地商談会の実施(9/4～5 招聘バイヤー8社、参加事業者：商談会14社、現地商談会8社)	県	・地元食品事業者等 ・首都圏バイヤー	平成25年4月1日	・販路拡大を図るとともに、市場の評価を踏まえた商品開発や販売戦略の磨き上げの契機となった。 ・招聘バイヤーからは、消費者の安全安心に対する意識が高まるなかで、直接生産現場を視察できる当商談会は貴重であるとの評価を得た。	特産品のブランド化、既存商品の磨き上げ、売り込みなどの課題は、今後も継続した取組が必要である。
						平成26年3月31日									
農林部	七尾 清己	森づくり推進課	林業振興班	落合 和秀	0186-23-2275	トンビマイタケ特産化推進事業	トンビマイタケの生産拡大と産地化を図るため、菌床購入に対し助成を行う。	188,750	直営	トンビマイタケ菌床の販売単価に対する助成を実施	県	鹿角管内でトンビマイタケ菌床を製造・販売している者	平成25年4月1日	・助成を実施したことにより、生産拡大に繋がった。 ・小坂町トンビマイタケ振興会で行った販売会では30分で売り切れるなど、これまでのPRが大きな効果を上げている。 ・あんたらあ直売会では、加工品の開発にも取り組む10月1日に試食会を実施した。 また、研修会も開催し、課題の克服にも努めている。	・自然発生が主であるため、収穫時期が重複したり、必要な時期に商品が品薄になるなどの課題がある。 ・これを克服するため、研修会を開催し、発生時期をずらす方法を学んだり、加工品の開発に取り組み試作品を改良中である。 ・生産者グループの組織化がなされ、自主的な取組も見られるようになったため、局としては今後、通常業務(普及業務)として引き続きサポートしていく。
						平成26年3月31日									

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	伊東 弘毅	地域企画課	企画振興班	保坂 小春	0186- 22-0456	エコ先進地かつのPR 事業	新エネルギーと金属リ サイクル先進地として 鹿角地域が持つポテ ンシャルについて、地 域住民の理解と関心 を高める。	187,413	直営	①小坂町主催「アカシア祭り」 において、「エコ先進地かつ の体感コーナー」を設置し、 来場者への普及啓発を実施 ②秋田市で開催された「エコ &リサイクルフェスティバル」 において、「エコ先進地かつ のPRブース」を設置し、来場 者への普及啓発を促進 ③両イベントにおいて、使用 済小型家電回収ボックスの利 用を呼びかけるノベルティ等 の配布も併せて実施	県	県民	平成25年4月1日	・管内唯一の太陽光モ ジュール製造業者や、 北部エコタウン計画の 広報拠点であるあきた エコタウンセンターと の協働による事業実 施とすることができ た。 ・アンケートの結果、 使用済小型家電回収 ボックスの未利用者の 多くから、同ボックス の利用を前向きに考 えたいとの回答が寄 せられた。	来場者へのアンケート の結果、使用済小型 回収ボックスを利用し たことがないとする回 答が5割弱あり、使用 済小型家電の回収量 アップのための普及啓 発を継続する必要が ある。
						平成25年4月1日～ 平成26年3月31日									
農林部	七尾 清己	農業振興 普及課	果樹産地支 援班	熊谷 一	0186- 25-3231	かつの北限のモモ生 産拡大事業	「かつの北限のモモ」 の生産拡大とブランド 化を図るため、栽培マ ニュアルの作成、栽培 講習会、リンゴとモモ の共通防除検討会の 立ち上げ等を実施す る。	576,658	直営	①新規作付希望者及び栽培 初心者向けの栽培技術講習 会を各作業時期毎(9回)開催 し、栽培技術の向上を促進 ②リンゴとモモの共通防除体 系検討会を設立し、かつの果 樹センター内及び現地圃場 での実証を実施 ③苗木養成技術向上に向け て、台木の育成方法を検討し た。また、台木への接ぎ木講 習会を開催し、栽培者の苗木 づくりへの啓発を実施	県	JAかつ の北限の 桃生産部 会、新規 栽培者	平成25年4月1日	・初心者向けの講習 会により、高品質なモ モを作るための基礎 的な栽培技術を学ぶ ことができた。 ・リンゴとモモの共通 防除体系確立に向け ては、検討会を設立す ることで栽培者に共通 防除体系についての 意識を高めることがで きた。 ・苗木養成技術向上 の取組によって、生産 者が良質な苗木を確 保するための技術習 得が出来た。	・面積拡大に向けた新 規作付者の確保に向 けた取組に加えて、若 い新規生産者の確保 に向けた取組も必要 である。 ・小坂町も視野に入れ た栽培者確保の取組 が必要である。
						平成25年4月1日～ 平成26年3月31日									
農林部	七尾 清己	農業振興 普及課	担い手・経 営班	鈴木 満明	0186- 23-3683	かつの牛生産基盤強 化事業	「かつの牛」の生産拡 大とブランド化を図る ため、肥育素牛導入 に対し助成を行う。	1,400,000	直営	「かつの牛」肥育素牛の市場 導入に対して助成	県	秋田県畜 産農業協 同組合	平成25年4月1日	肥育素牛導入価格高 騰にもかかわらず、新 たに40頭が導入され、 かつの牛全体の頭数 は、H24年度の140頭 からH25年度末で201頭 に増頭された。	・増頭目標達成に向 け、各種実証展示や 生産コストを下げる必 要がある。 ・販売促進のためのP Rや啓発活動を引き 続き実施する必要が ある。
						平成25年4月1日～ 平成26年3月31日									